

STRATEGIC CASE STUDY

なぜ、ロレックスは 「別格」なのか？

金属の塊を「夢」に変えた、世界一のブランディング戦略

Based on 『ロレックスの経営史』 by Pierre-Yves Donzé



性能が100倍優れているわけではない。



「お金持ちの象徴」として知られるロレックス。
しかし冷静に考えてみてください。セイコーやシチズンに
比べて、機能が劇的に優れているのでしょうか？



答えはNoです。「スマホがあれば時間はわかる」時代に、
なぜ私たちは数百万円を支払うのでしょうか？

私たちが買っているのは「時計」ではない。「成功の定義」だ。

世界初の快挙：ものづくりから「ゆめづくり」へ

多くの日本企業が陥る罠：
単に「性能が良いもの」を作れば
売れるという誤解。

ロレックスの真の発明は、
時計を「時間を知らせる便利な機械」から
「感情を伝えるアクセサリー」へと
昇華させたことにある。



Monozukuri



Yumezukuri

Tech (技術) + Narrative (物語) = Brand (ブランド)

A black and white portrait of Hans Wilsdorf, a man with dark hair, wearing a suit and tie, looking slightly to the left.

創業者は、時計職人ではなかった。
彼は「商人(セールスマン)」だった。

MERCHANT (商人)

ハンス・ウィルズドルフの野望

当時のスイス時計業界は「いかに正確か」で競っていた。

商人の目を持つ彼は気づいた。
「正確なだけじゃダメだ。独創的な製品として差別化しないと勝てない」。

彼は技術の競争ではなく、
「**どう売るか**」の競争を始めた。

1905年：技術より先に「名前」を発明した

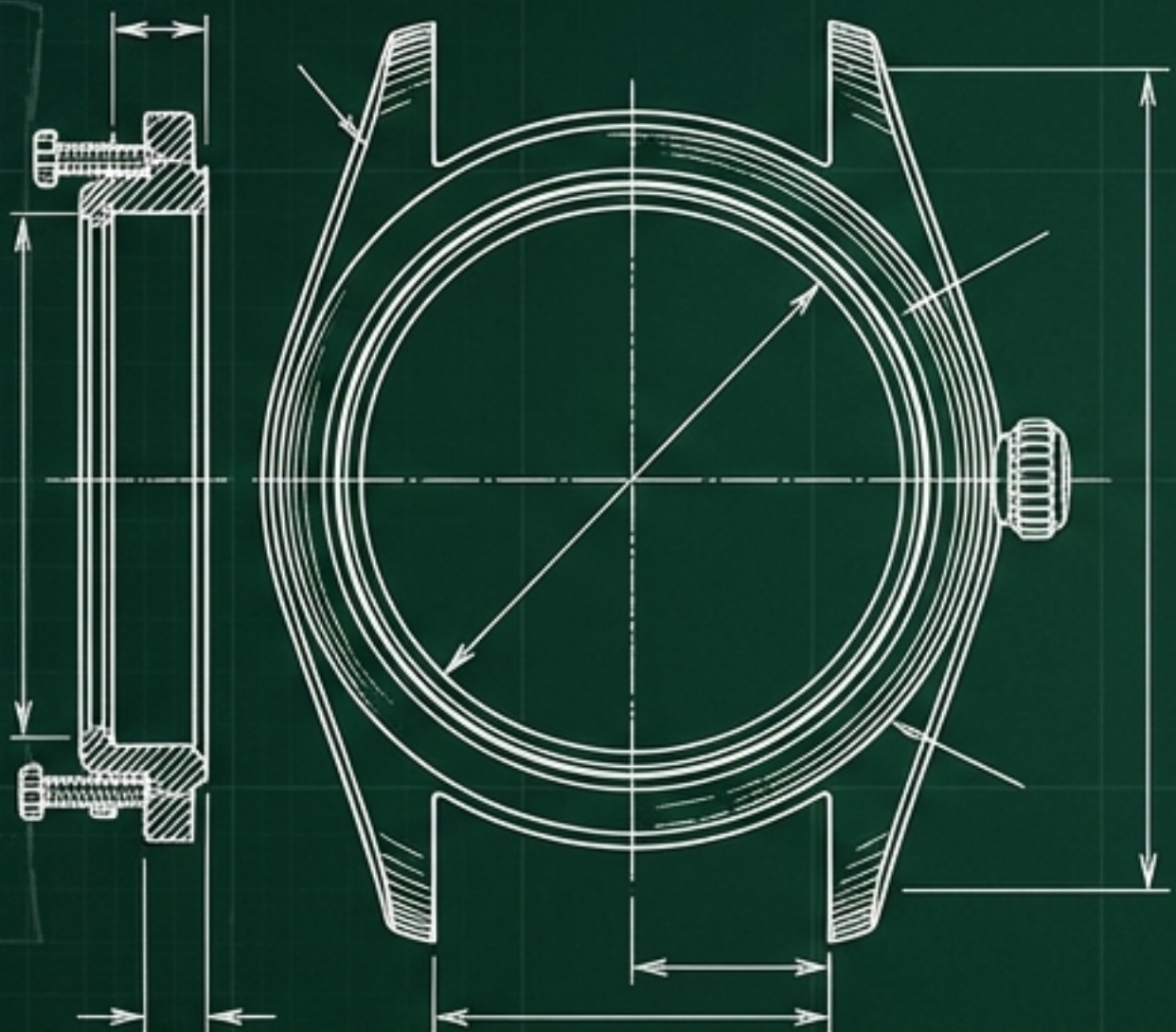


- ✓ 短く、記憶に残る。
- ✓ どの言語でも発音しやすい。
- ✓ 文字盤に刻印したときに美しく見える。

マニファクチュール（自社一貫製造）が確立する前から、最強の「ブランド」は存在していた。

1926-1931：技術は「前提条件」にすぎない

オイスター (1926)：完全防水ケース



パーペチュアル (1931)：自動巻き機構



これらは大ヒットしたが、まだあくまで「機能（スペック）」の話。

この時点のロレックスは、まだ「高品質な時計を大量生産して売るメーカー」にすぎなかった。魔法はまだ起きていない。



1947年：運命を変えたパートナーシップ

世界最大の広告会社 J・ウォルター・トンプソン（JWT）との提携



ギアやバネの「機能」を語ること。



その時計を使う「人間」を語ること。

「機能を語るな、夢を語れ」

エクセレントな人のための、エクセレントな時計



JWTは「成功者」や「挑戦者」を広告に起用した。



証言広告の心理効果：「エベレストに耐えるなら、私の日常でも壊れない」（機能への信頼）



「この時計をつければ、私も成功者の仲間入りができる」（自己実現への渴望）

BIEL (ビエヌ)



「ロレックス製造」
技術屋集団

ひたすら良いムーブメントを作る

GENEVA (ジュネーブ)



「ロレックス時計」
販売屋集団

「どう魅せるか」に特化する

製造と販売の完全分離。お互いがプロとして独立していたからこそ、
最高品質と最高のアピールが両立した。

アクセシブル・ラグジュアリー (Accessible Luxury)

手の届く贅沢



ロレックスの「魔法」の正体

1. Origin

職人ではなく「商人」の視点

2. Product

圧倒的な実用性
(オイスター/パーペチュアル)

3. Narrative

成功と自信の物語
(JWTの戦略)

4. Structure

製造と販売の分離

私たちは「モノ」ばかり説明していかないか？

現代のビジネスパーソンへの問いかけ。

つつい「機能」や「スペック」ばかり語ってしまう。

しかし、顧客が本当に欲しいのは「その仕事が、相手にどんな未来を見せるのか」という物語だ。

脱・スペック至上主義。

ロレックスが売っているものの正体



自信 達成感 人生の道標

「それは単なる金属の塊ではない。あなたが『エクセレント』な人間であるという証明だ。」

いつか、その 「物語」に に合う自分へ

ロレックスの価値は、受け継がれる「物語」にある。私たちもまた、自分の仕事に「夢」を乗せよう。
そしていつか、自分の人生の記念碑として、この時計を巻けるような「エクセレント」な人間になろう。

あなたの仕事で
「伝説」を作れ。

From Monozukuri (ものづくり)



To Yumezukuri (ゆめづくり)

Be a Storyteller.

